

証券コード：7472

“百年の信頼を未来につなげる”

2027年3月期 第1四半期 決算説明補足資料

2026年8月7日(金)
株式会社鳥羽洋行

I. 2027年3月期1Q決算について

II. 今後の戦略及び見通し

I.2027年3月期1Q決算について



株式
会社

鳥羽洋行

<連結損益計算書の概要>

(単位：百万円)

	26/3月期 1Q	27/3月期 1Q	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	7,539	8,060	6.9%	国内売上が、前年を上回る
営 業 利 益	416	462	11.0%	売上総利益が、前年比7.4%増 売上総利益率が、0.1ポイント改善
営 業 利 益 率	5.5%	5.7%		
経 常 利 益	452	505	11.7%	
経 常 利 益 率	6.0%	6.3%		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	319	348	9.1%	
四 半 期 純 利 益 率	4.2%	4.3%		

Point!

- 生成AI向けの高性能半導体の設備投資増加等により、好調に推移。

I.2027年3月期1Q決算について

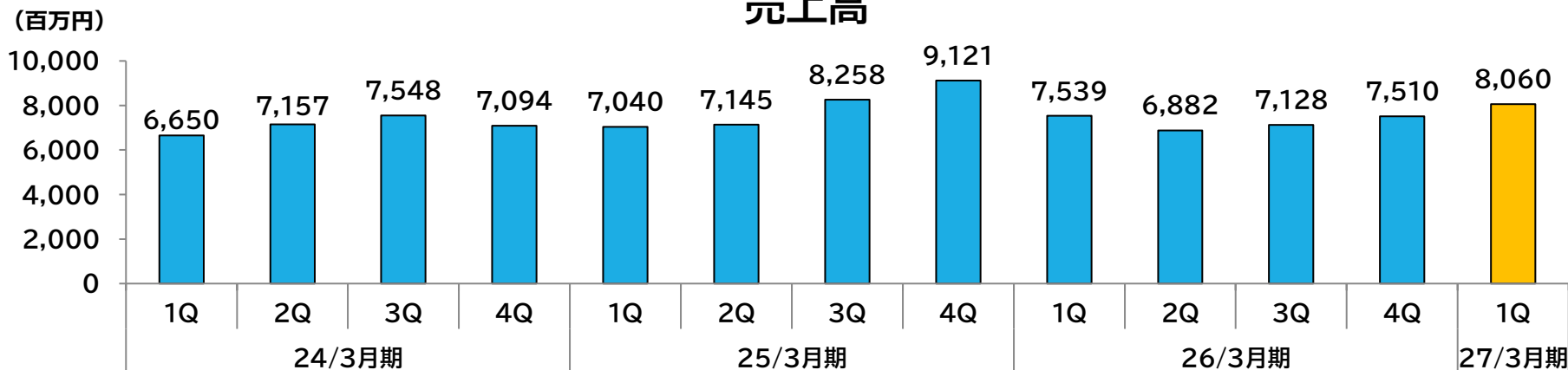


株式
会社

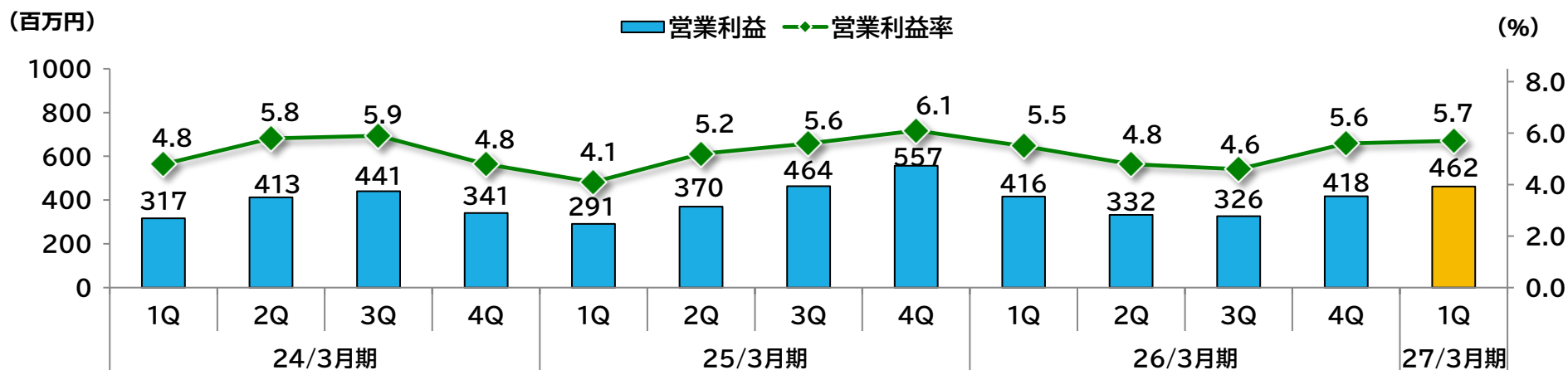
鳥羽洋行

<四半期毎の連結売上高・連結営業利益の推移>

売上高



営業利益/営業利益率



Point!

●前期後半より、半導体製造装置関連得意先の販売が堅調に推移し、売上高、営業利益共に高水準を維持。

I.2027年3月期1Q決算について



株式
会社

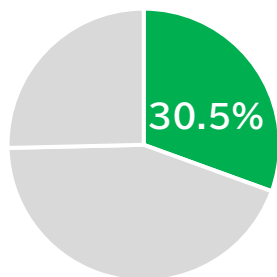
鳥羽洋行

<商品部門別実績>

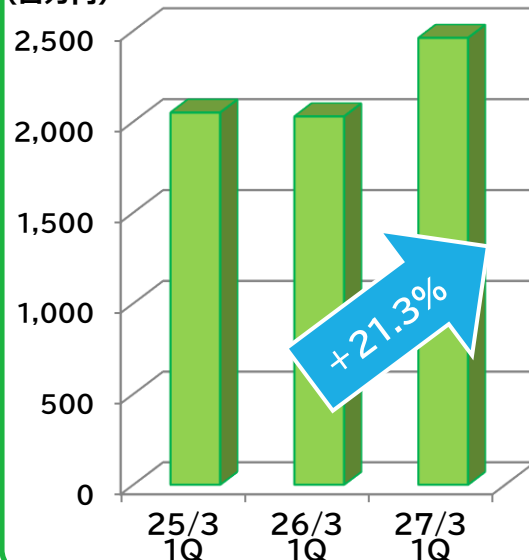
制御機器

連結売上高

24億61百万円



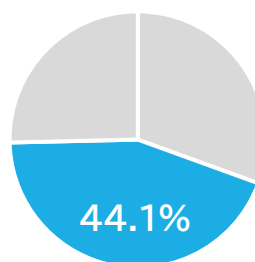
(百万円)



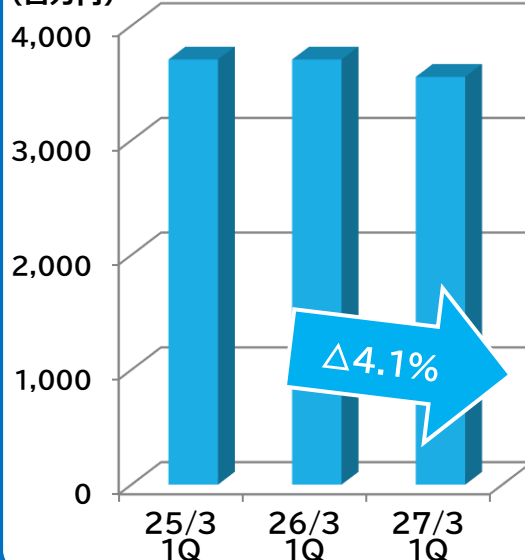
FA機器

連結売上高

35億54百万円



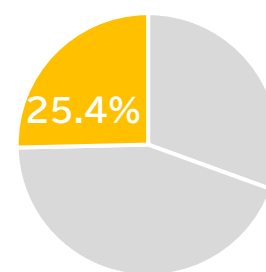
(百万円)



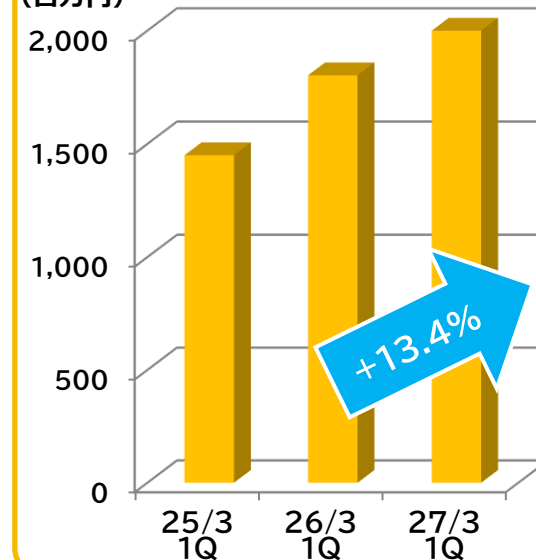
産業機器

連結売上高

20億44百万円



(百万円)



Point!

- 制御/産業機器:半導体製造装置向け 空気圧機器・ろ過フィルタの需要増加。
- FA機器:自動車設備関連向け 自動化システムの需要減少。

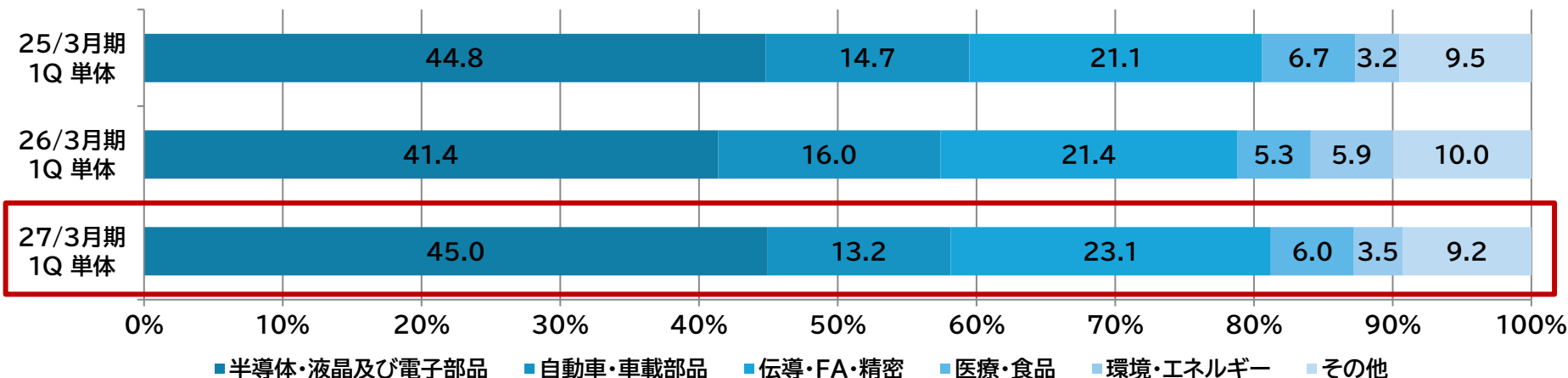
I.2027年3月期1Q決算について



株式
会社

鳥羽洋行

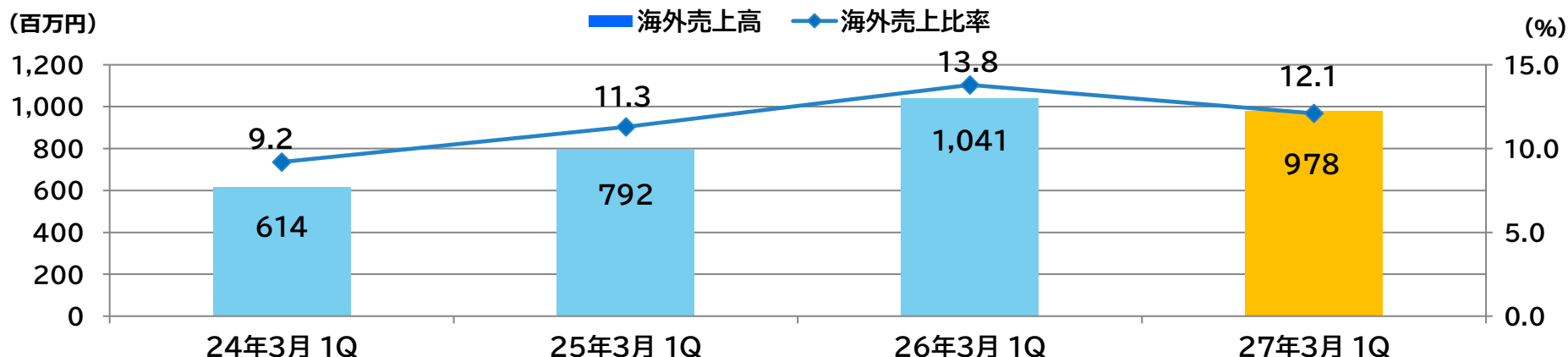
<業種別売上構成比(単体)推移>



Point!

● 生成AI分野の設備投資需要拡大により、半導体関連の構成比増。

<海外売上高・海外売上比率(連結)推移>



Point!

● 中国子会社の現地販売は微減。概ね横ばいで推移。

I.2027年3月期1Q決算について



株式
会社

鳥羽洋行

<連結貸借対照表の概要>

(単位:百万円)

	26/3月末	構成比 (%)	26/6月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	20,884	71.5	20,630	70.0	
現金・預金	12,448	42.6	13,533	45.9	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	7,710	26.4	6,520	22.1	
商品	552	1.9	454	1.5	
固定資産	8,319	28.5	8,830	30.0	
資産合計	29,204	100.0	29,460	100.0	
流動負債	6,773	23.2	6,675	22.7	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	6,149	21.1	6,061	20.6	
固定負債	624	2.1	807	2.7	
負債合計	7,398	25.3	7,482	25.4	
純資産合計	21,806	74.7	21,978	74.6	
負債純資産合計	29,204	100.0	29,460	100.0	

Point!

● 構成比に大きな変化はございません。

I. 2027年3月期1Q決算について

II. 今後の戦略及び見通し

<今後の市場環境>

◆ 半導体関連

生成AIの普及を背景としたデータセンター等への設備投資が旺盛に推移し、総じて高性能半導体に係る設備投資は前期後半より好調に推移。一方、自動車向けパワー半導体については、昨年から自動車関連設備投資が減速傾向で横ばい見込み。

◆ 自動車・車載部品業界

自動車の生産台数は、昨年よりトランプ関税の影響を受け低迷。EV(電気自動車)向けの設備投資は鈍化傾向にあるが、HV(ハイブリット車)に関連する需要は継続して好調に推移する見込み。

◆ 自動化システム

生産現場における労働力不足を補う自動化システム案件は継続的に増加傾向にあり、ロボットやFA機器の販売は底堅く推移する見込み。

◆ 環境負荷低減商材

カーボンニュートラルに向けた取組みが拡大する中で、CO2排出量削減効果の高い商材の発掘、拡販により他社との差別化と企業価値の向上を目指す。
ペロブスカイト太陽電池等、新たな需要が期待できる。

Ⅱ. 今後の戦略及び見通し



株式
会社

鳥羽洋行

<2027年3月期の戦略 ~5つの柱~>

1. 次世代の柱となるユーザーの新規開拓、育成

- ・ 積極的な展示会出展と来場者フォローによる新規顧客開拓
- ・ 自動車・車載部品及び半導体関連顧客への販売強化
- ・ M&Aによるシナジーを活かした売上/利益の拡大

2. 新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

- ・ 生産性向上と労働負荷を低減できる新たな商材の発掘
- ・ カーボンニュートラルに向けたサプライヤーとの連携強化

3. 装置ビジネスの更なる販売強化

- ・ 労働力不足を補う自動化装置とロボットの販売強化による売上増大

4. 技術商社としての存在価値強化(ブランド強化)

- ・ 各種専門資格等の取得による提案型営業推進及び営業研修拡充

5. 海外拠点との連携強化

- ・ 新規海外拠点の検討
- ・ 海外子会社への人材積極投入

<大型展示会へ出展(4月)>
「ものづくりワールド[名古屋]機械要素技術展」
に出展し、2,115名が当社ブースに来場



<ロボット販売拡大>
協働ロボット、搬送ロボット等
小～中型の産業用ロボット販売に注力



<各種自動化装置ビジネス>
生産性向上と労働力不足解消に貢献。
装置売上：50億円を目指す



<2027年3月期の連結業績予想>

(単位:百万円)

	第77期 (2026年3月期) 実績	第78期 (2027年3月期) 計画	前期比 (増減率)
売上高	29,061	32,000	10.1%
営業利益	1,494	1,730	15.8%
営業利益率	5.1%	5.4%	
経常利益	1,612	1,845	14.4%
経常利益率	5.5%	5.8%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,107	1,240	12.0%
当期純利益率	3.8%	3.9%	

<第6次 中期経営計画「Next Stage 2029」について>

経営理念を軸とし、中期経営計画を策定し、事業活動を通じて企業価値の向上と持続可能な社会の実現を目指します。

(単位:百万円)

	第78期 (2027年3月期)	第79期 (2028年3月期)	第80期 (2029年3月期)
売 上 高	32,000	35,000	38,000
営 業 利 益	1,730	2,100	2,350
経 常 利 益	1,845	2,200	2,500
当 期 純 利 益	1,240	1,500	1,650

※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく、「ローリング方式」により中期経営計画を毎年度策定することとしております。

Point!

- 2026年5月8日、2027年3月期～2029年3月期の3ヶ年計画をリリース。
- 今期目標数値:売上高320億円達成に向けて順調に進捗中。

Ⅱ. 今後の戦略及び見通し



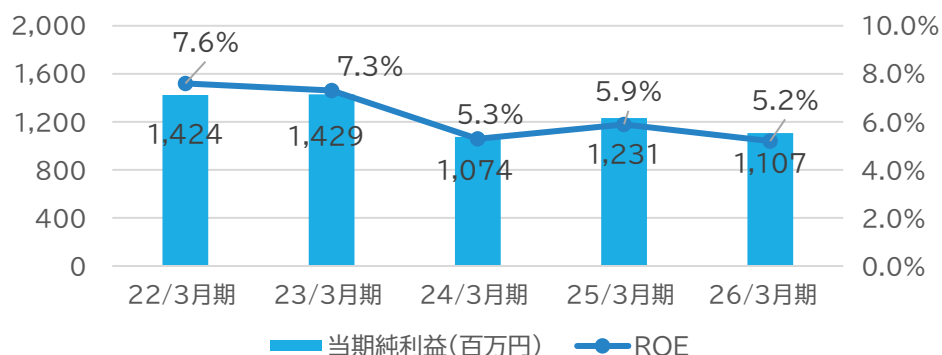
株式
会社

鳥羽洋行

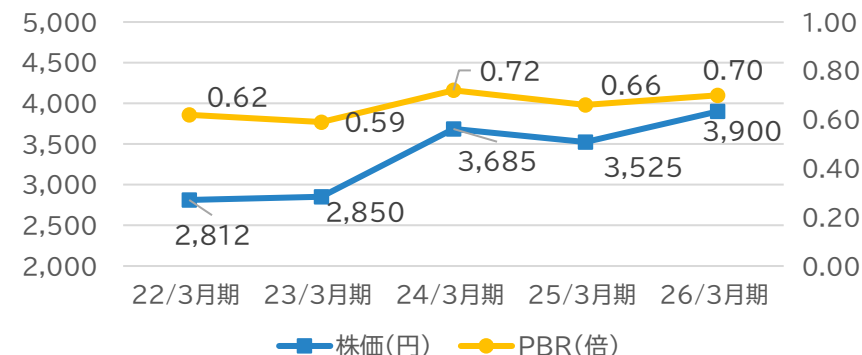
<経営指標目標の達成に向けた取組み>

～ 当社目標:ROE8.0%、PBR1.0倍以上 ～

ROEと当期純利益の実績

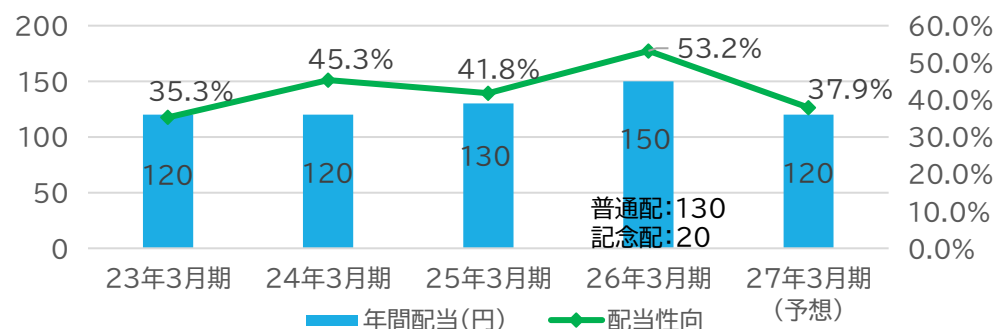


PBRと当社株価の実績



～ 株主還元について ～

配当金と配当性向の実績と今期予想



<株主還元方針>

長期的、安定的な利益還元の実施を目標とし、連結配当性向を35%以上、一株当たりの配当金40円を下限とする。また、自己株式取得等の間接的な株主還元についても機動的に対応。

Point!

中期経営計画における事業拡大戦略の実行と業務効率化の推進による収益性の向上を目指します。人的資本への積極投資を行い、IR活動や非財務情報の適切な開示及び最適な株主還元(配当・自社株買い等)を実行し、株式市場からの評価を得ることで企業価値の向上を目指します。

この資料には、2026年8月7日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

〔問い合わせ先〕

株式会社 鳥羽洋行
管理本部総務グループIR担当

住 所：〒112-0005
東京都文京区水道2丁目8番6号
電話番号：03-3944-4031
F A X : 03-3944-4091
E メール : kanri-01@toba.co.jp